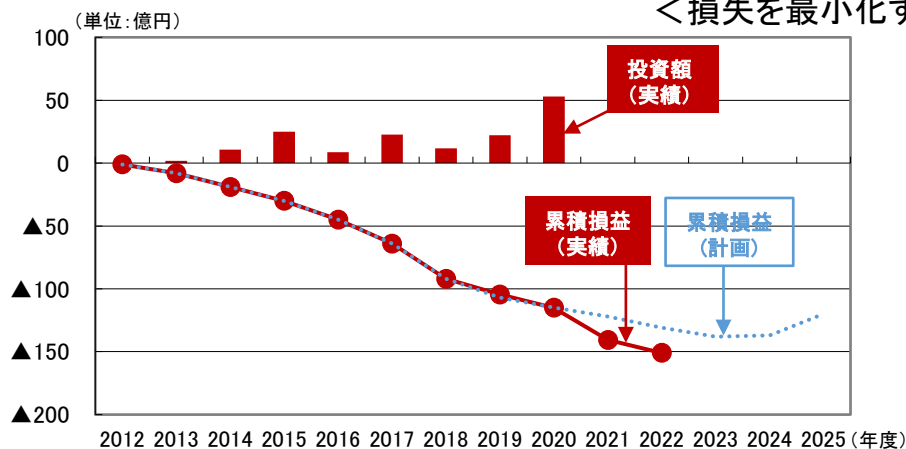


1 損失を最小化するための改善計画の進捗状況 (株)農林漁業成長産業化支援機構

- 改革工程表2018(平成30年12月20日経済財政諮問会議決定)を踏まえ、累積損失解消のための数値目標・計画を策定・公表(2019年4月)。
※改革工程表2018では、「各官民ファンド及び監督官庁が累積損失解消のための数値目標・計画を策定し、2019年4月までに公表」と記載。
- 同年11月、その計画の進捗状況を検証し、監督官庁である農林水産省において、A-FIVEについては、2021年度(令和3年度)以降は新たな出資の決定を行わず、可能な限り速やかに解散するとの方針が示された(同年12月)。その上で、農林水産省より損失を最小化するため投資計画を見直すよう指示を受けたことから、「損失を最小化するための改善計画」を作成(2020年5月)。
- 本資料では、2022年度末(2023年3月末)時点の実績に基づき、上記の「損失を最小化するための改善計画」の進捗状況のフォローアップを行った。

<損失を最小化するための改善計画>



(単位:億円)

	2021年度(2022.3末)		2022年度(2023.3末)	
	計画	実績	計画	実績
投資額	—	—	—	—
累積損益	▲122	▲141	▲131	▲151

- 2021年度以降は、新たな出資の決定を行っていない。
- 解散期限である2025年度まで、A-FIVEが回収業務を行うことで損失の最小化に努めることとし、2025年度末(2026年3月末)の累積損失は、120億円とする計画。
注)1 2022年度末の累積損益(実績)は、決算見込額。
注)2 四捨五入の関係で差し引きが一致しない場合がある。

- 2022年度末の累積損益は▲151億円。
改善計画に基づく、2022年度の累積損益計画額▲131億円に対して20億円下回った。
これは、2021年度末において、計画と実績との差▲18億円が生じていたところ、新型コロナウイルス等の影響による経済状況の回復が本格化しない中において、出資先の業績悪化により、▲2億円の乖離が生じたもの。
- 2022年度においては、人件費の削減等により、前年比0.5億円/年の経費削減を行った。
- 2022年度末の計画未達(▲20億円)による累積損益(計画)への影響については、現段階で出資時と比較して企業価値が向上している出資先があり、23億円程度の利益を見込んでいること、さらに、業績の回復につながる支援を積極的に行い、回収の最大化を図ることにより、2025年度末の累積損益を▲120億円とする計画の達成は可能と見込まれる。